



あなたの、いちばんであるために。2017.4～6月期 No.038

やましん

中小企業景況レポート

山梨信用金庫 総合企画部
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36
TEL 055-225-0213
ホームページアドレス
<http://www.yamasin.jp/>

2017.7.28 発行

■ 調査要領 ■

1. 調査対象
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120社
2. 調査時期・期間
調査時期：2017年6月1日～7日
調査期間：今期実績 2017年4月～6月
来期見通し 2017年7月～9月
3. 調査方法
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法
DIを中心に分析

■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	30	29	96.6%
卸売業	15	15	100%
小売業	15	15	100%
サービス業	29	27	93.1%
建設業	23	23	100%
不動産業	8	8	100%
合計	120	117	97.5%

※ 国中地区 71社、東部地区 30社、相模原市周辺地区 16社

※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い(増加)」とした企業割合－「悪い(減少)」とした企業割合の構成比との差(判断DI)による分析です。
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

(例)「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは50「良い・やや良い」－20「悪い・やや悪い」＝＋30となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	▲13.4	20.5	24.7	▲4.2	20.5	28.2	▲7.7
製造業	▲24.1	27.5	31.0	▲3.5	31.0	37.9	▲6.9
卸売業	▲33.3	6.6	33.3	▲26.7	26.6	20.0	6.6
小売業	▲13.3	13.3	40.0	▲26.7	6.6	33.3	▲26.7
サービス業	▲3.4	22.2	18.5	3.7	18.5	29.6	▲11.1
建設業	▲8.7	21.7	13.0	8.7	17.3	21.7	▲4.4
不動産業	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0

業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31以上	11～30	10～▲10	▲11～▲30	▲30未満

概況

<業況・売上・収益>

今期（4～6月）のD Iをみると、業況判断D I（「良い」－「悪い」）は、前期（1～3月）の▲13.4から▲4.2と9.2ポイント改善（前年同期比5.2ポイント改善）しました。売上D I（「増加」－「減少」）は、▲23.5から▲4.3と同19.2ポイント改善（前年同期比3.4ポイント改善）、収益D I（「増加」－「減少」）は▲24.4から▲0.9と同23.5ポイント改善（前年同期比14.5ポイント改善）となり、全てのD Iで改善となりました。

業況D Iについては、小売業で悪化となりましたが、製造業で▲24.1から▲3.5と同20.6ポイント改善したほか、卸売業・サービス業・建設業においても改善したことが要因となっています。

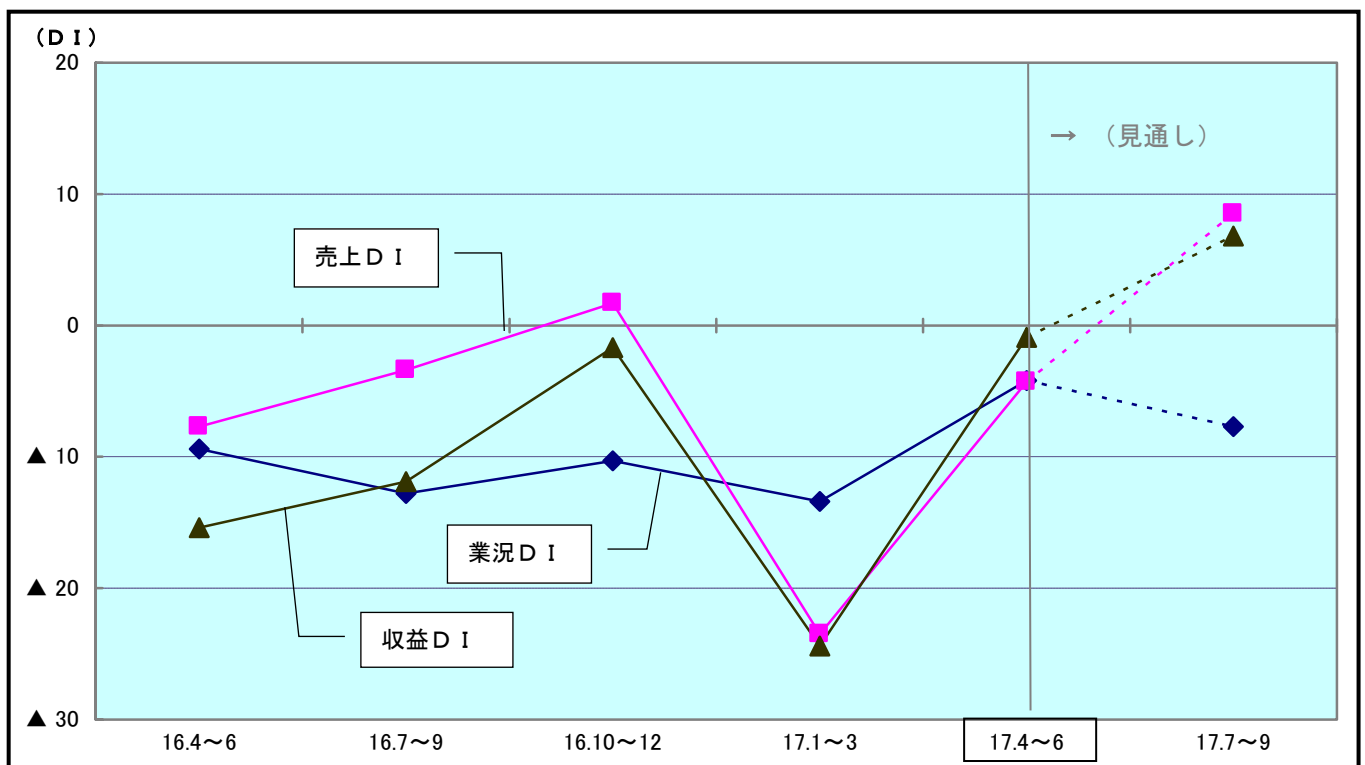
売上D Iについては、卸売業で▲46.6から▲6.7と同39.9ポイント改善したほか、小売業・サービス業・建設業・不動産業においても改善したことが要因となっています。

収益D Iについては、卸売業で▲46.7から▲6.6と同40.1ポイント改善したほか、その他の全ての業種においても改善したことが要因となっています。

全業種総合の来期見通し（7～9月）をみると、業況判断D Iが▲7.7と、今期実績比3.5ポイント悪化と見込まれています。また、売上D Iは8.5と、同12.8ポイントの改善、収益D Iは6.8と、同7.7ポイントの改善が見込まれています。業種別の業況判断D Iは、卸売業で改善が見込まれる一方、製造業・サービス業・建設業・不動産業で悪化が見込まれています。

■ 業況・売上・収益D Iの時系列推移

	16.4～6	16.7～9	16.10～12	17.1～3	17.4～6	17.7～9見通し
業況 D I	▲9.4	▲12.8	▲10.3	▲13.4	▲4.2	▲7.7
売上 D I	▲7.7	▲3.4	1.7	▲23.5	▲4.3	8.5
収益 D I	▲15.4	▲11.9	▲1.7	▲24.4	▲0.9	6.8



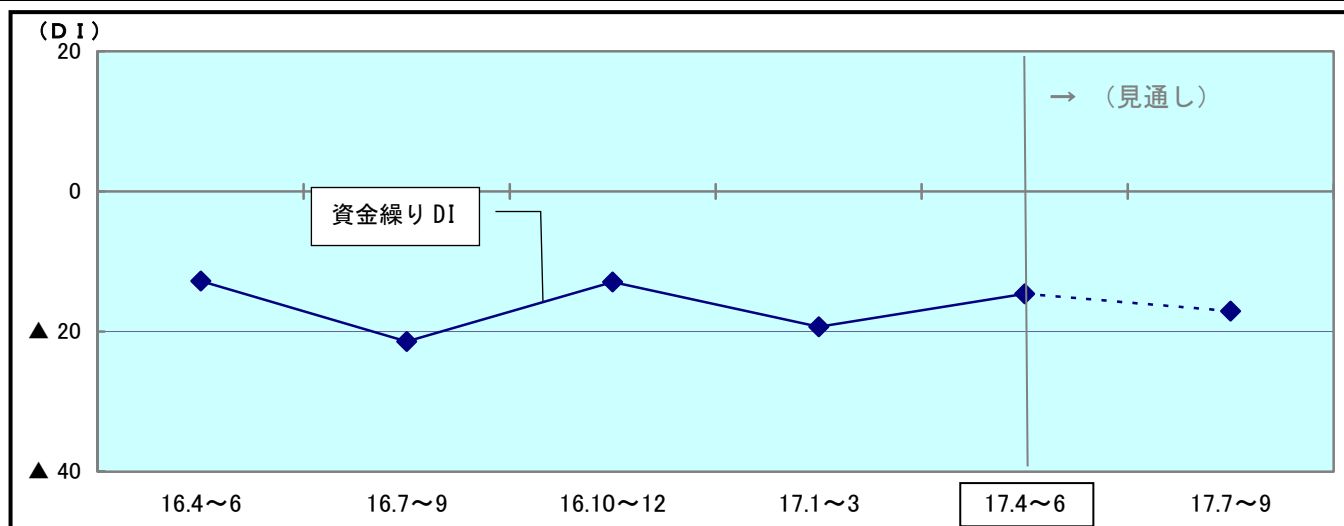
<資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲14.6と、前期比4.7ポイントの改善となりました（前年同期比1.8ポイント悪化）。

また、来期の資金繰りDIは▲17.1と、今期実績比2.5ポイントの悪化が見込まれています。

■ 資金繰りDIの時系列推移

	16.4~6	16.7~9	16.10~12	17.1~3	17.4~6	17.7~9 見通し
資金繰りDI	▲12.8	▲21.4	▲12.9	▲19.3	▲14.6	▲17.1



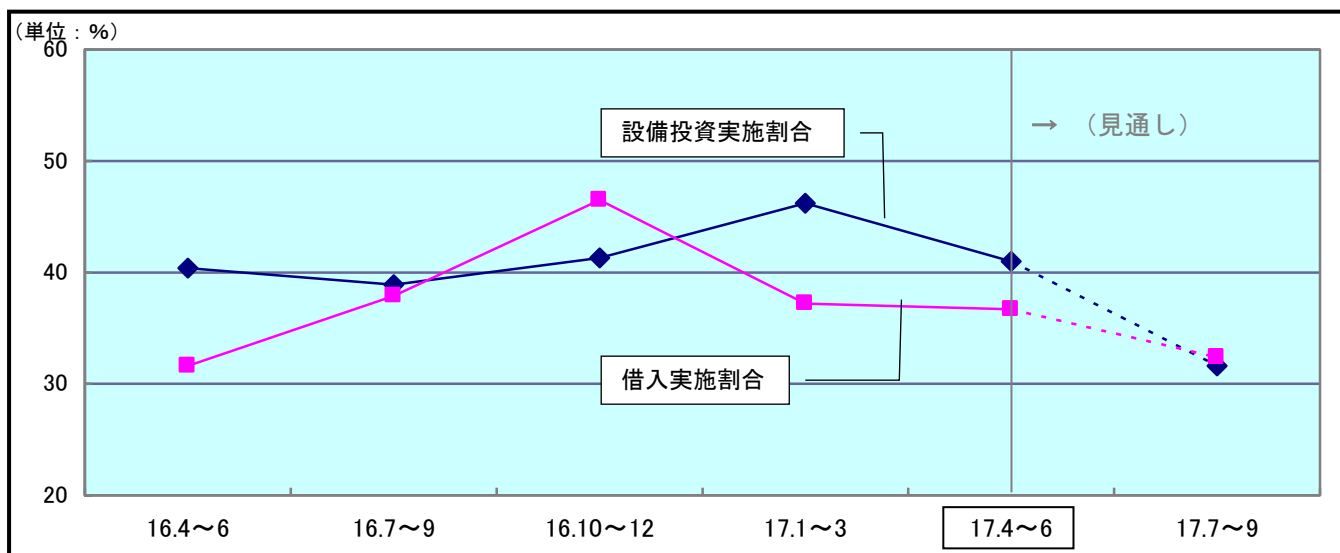
<設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は41.0%と、前期比5.2ポイント低下しています（前年同期比0.6ポイント上昇）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は31.6%と今期実績比9.4ポイントの低下が見込まれています。

全業種総合の借入実施企業割合は36.7%と、前期比0.5ポイント低下しています（前年同期比5.1ポイント上昇）。また、来期の借入実施予定企業割合は32.4%と、今期実績比4.3ポイントの低下が見込まれています。

■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	16.4~6	16.7~9	16.10~12	17.1~3	17.4~6	17.7~9 見通し
設備投資実施割合	40.4%	38.8%	41.3%	46.2%	41.0%	31.6%
借入実施割合	31.6%	37.9%	46.5%	37.2%	36.7%	32.4%



【製造業】

今期の業況判断D Iは▲3.5 となり、前期（1～3月）比 20.6 ポイント改善となりました（前年同期比 13.1 ポイント改善）。売上D Iは同横ばいの▲6.9、収益D Iは同 17.3 ポイント改善の 0.0、資金繰りD Iは、同 0.1 ポイント改善の▲17.2 となりました。

来期（7～9月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比 3.4 ポイント悪化の▲6.9、売上D Iが同 17.3 ポイント改善の 10.4、収益D Iは同 13.8 ポイント改善の 13.8、資金繰りD Iが同横ばいの▲17.2 と見込まれています。

■経営上の問題点（）内は前回順位

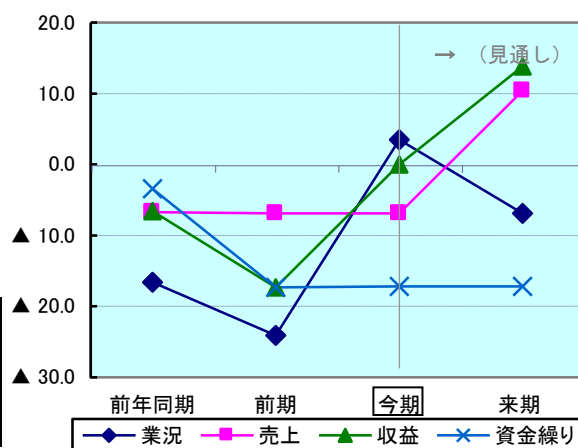
1	売上の停滞・減少(1)	44.8%
2	人手不足(2)	31.0%
3	同業者間の競争激化(4)	27.6%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	58.6%
2	経費の節減(2)	44.8%
3	人材の確保(3)	24.1%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲16.6	▲24.1	▲3.5	▲6.9
売上	▲6.7	▲6.9	▲6.9	10.4
収益	▲6.6	▲17.3	0.0	13.8
資金繰り	▲3.4	▲17.3	▲17.2	▲17.2



【卸売業】

今期の業況判断D Iは▲26.7 となり、前期（1～3月）比 6.6 ポイント改善となりました。（前年同期比 12.4 ポイント悪化）。売上D Iは同 39.9 ポイント改善の▲6.7、収益D Iは同 40.1 ポイント改善の▲6.6、資金繰りD Iは、同 26.7 ポイント改善の▲26.6 と全てのD Iで改善となりました。

来期（7～9月）の見通しについては、業況判断D Iが、今期実績比 33.3 ポイント改善の 6.6、売上D Iが同 13.3 ポイント改善の 6.6、収益D Iが同 19.9 ポイント改善の 13.3、資金繰りD Iが同 6.7 ポイント悪化の▲33.3 と見込まれています。

■経営上の問題点（）内は前回順位

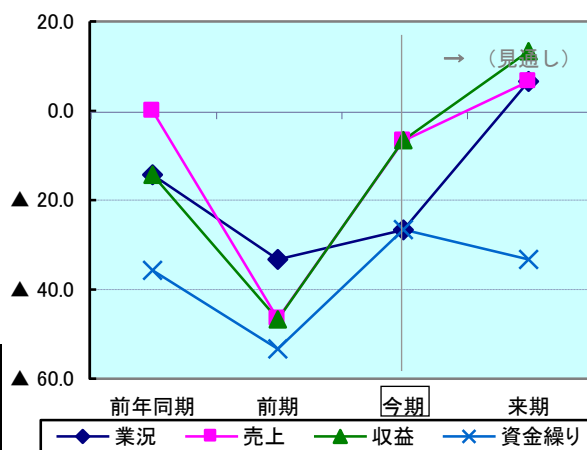
1	売上の停滞・減少(1)	53.3%
2	同業者間の競争激化(2)	33.3%
	取引先の減少(4)	

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	73.3%
2	経費の節減(2)	33.3%
	情報力の強化(3)	

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲14.3	▲33.3	▲26.7	6.6
売上	0.0	▲46.6	▲6.7	6.6
収益	▲14.3	▲46.7	▲6.6	13.3
資金繰り	▲35.7	▲53.3	▲26.6	▲33.3



【小売業】

今期の業況判断D Iは▲26.7となり、前期（1～3月）比13.4ポイントの悪化となりました（前年同期比5.2ポイント悪化）。売上D Iは同13.3ポイント改善の▲6.7、収益D Iは同20.1ポイント改善の▲6.6となりました。資金繰りD Iは同13.4ポイント改善の▲26.6となりました。

来期（7～9月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比横ばいの▲26.7、売上D Iが同6.7ポイント改善の0.0、収益D Iが同6.7ポイント悪化の▲13.3となりました。資金繰りD Iは6.6ポイント改善の▲20.0と見込まれております。

■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	売上の停滞・減少(1)	60.0%	1	経費の節減(1)	60.0%
3	利幅の縮小(2)	26.7%	2	品揃えの改善(3)	40.0%
	同業者間の競争激化(3)		3	宣伝・広告の強化(2)	20.0%
			3	人材の確保(3)	

【サービス業】

今期の業況判断D Iは3.7となり、前期（1～3月）比7.1ポイント改善しました（前年同期比10.6ポイント改善）。売上D Iは同34.7ポイント改善の3.7、収益D Iは同24.4ポイント改善の3.7、資金繰りD Iは、同10.1ポイント改善の▲3.7と全てのD Iで改善となりました。

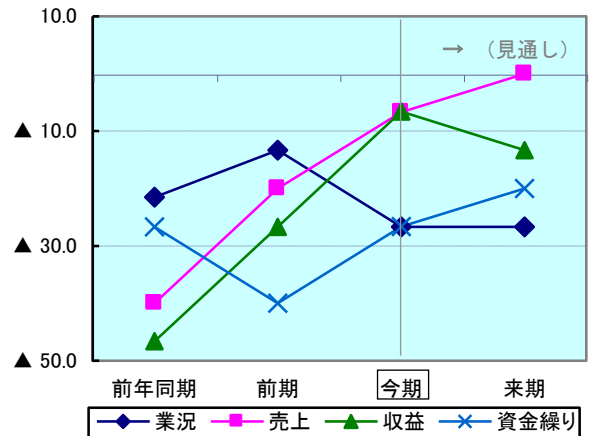
来期（7～9月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比14.8ポイント悪化の▲11.1、売上D Iが同22.2ポイント改善の25.9、収益D Iが同18.5ポイント改善の22.2、資金繰りD Iが3.7ポイント悪化の▲7.4と見込まれています。

■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	人手不足(1)	51.9%	1	人材の確保(1)	48.1%
2	売上の停滞・減少(2)	33.3%	2	経費の節減(3)	44.4%
3	店舗・施設の狭小・老朽化(3)	18.5%	3	販路の拡大(2)	40.7%
	同業者間の競争激化(4)				

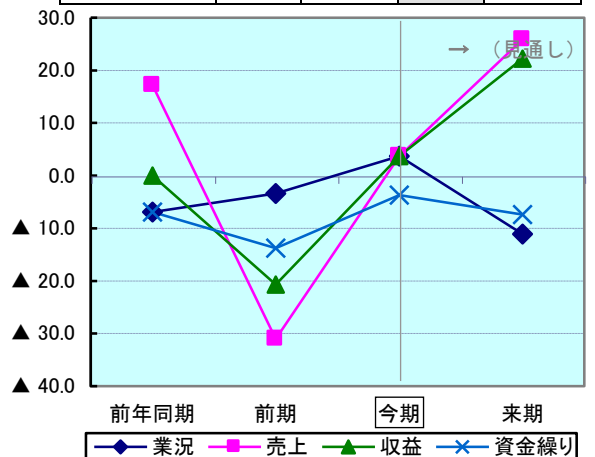
■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲21.5	▲13.3	▲26.7	▲26.7
売上	▲40.0	▲20.0	▲6.7	0.0
収益	▲46.6	▲26.7	▲6.6	▲13.3
資金繰り	▲26.7	▲40.0	▲26.6	▲20.0



■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲6.9	▲3.4	3.7	▲11.1
売上	17.2	▲31.0	3.7	25.9
収益	0.0	▲20.7	3.7	22.2
資金繰り	▲6.9	▲13.8	▲3.7	▲7.4



【建設業】

今期の業況判断D Iは8.7となり、前期(1~3月)比で17.4ポイント改善しております(前年同期比13.2ポイント改善)。売上D Iは同17.4ポイント改善の▲17.4、収益D Iは同26.1ポイント改善の▲4.4、資金繰りD Iは、同13.1ポイント悪化の▲8.7となっております。

来期(7~9月)の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比13.1ポイント悪化の▲4.4、売上D Iが同17.4ポイント改善の0.0、収益D Iが同0.1ポイント改善の▲4.3、資金繰りD Iが同13.0ポイント悪化の▲21.7と見込まれています。

■経営上の問題点 ()は前回順位

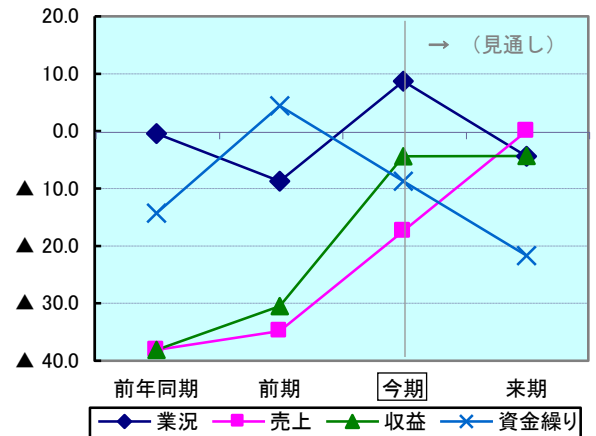
1	同業者間の競争の激化(1)	65.2%
2	利幅の縮小(2)	39.1%
3	売上の停滞・減少(3)	26.1%

■当面の重点経営施策

1	情報力の強化(3)	52.2%
2	販路の拡大(3)	47.8%
3	技術力の強化(1)	39.1%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲4.5	▲8.7	8.7	▲4.4
売上	▲38.1	▲34.8	▲17.4	0.0
収益	▲38.1	▲30.5	▲4.4	▲4.3
資金繰り	▲14.3	4.4	▲8.7	▲21.7



【不動産業】

今期の業況判断D Iは12.5となり、前期(1~3月)比で横ばいとなりました。(前年同期比12.5ポイント悪化)。売上D Iは同12.5ポイント改善の25.0、収益D Iが同12.5ポイント改善の12.5となりました。資金繰りD Iは同横ばいの▲12.5となりました。

来期(7~9月)の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比12.5ポイント悪化の0.0、売上D Iが同37.5ポイント悪化の▲12.5、収益D Iが同25.0ポイント悪化の▲12.5、資金繰りD Iが同12.5ポイント改善の0.0と見込まれています。

■経営上の問題点 ()は前回順位

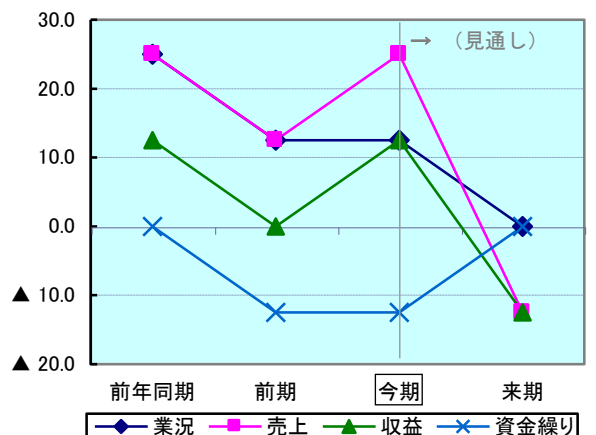
1	商品物件の不足(4)	75.0%
2	利幅の縮小(1)	62.5%
3	同業者間の競争の激化(1)	37.5%

■当面の重点経営施策

1	情報力強化(1)	62.5%
2	経費の節減(5)	50.0%
3	販路拡大(1)	37.5%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	25.0	12.5	12.5	0.0
売上	25.0	12.5	25.0	▲12.5
収益	12.5	0.0	12.5	▲12.5
資金繰り	0.0	▲12.5	▲12.5	0.0



<地区別D I の状況>

	国 中 地 区				東 部 地 区				相 模 原 市 周 辺 地 区			
	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期
業況D I	▲10.0	▲15.3	▲9.8	▲11.2	0.0	▲10.0	13.3	0.0	▲35.2	▲11.8	▲6.2	▲12.5
売上D I	▲11.2	▲20.8	▲5.6	▲4.2	6.6	▲16.7	3.3	23.3	▲6.2	▲41.2	0.0	31.2
収益D I	▲14.0	▲23.6	▲1.4	2.8	▲3.3	▲26.7	6.6	10.0	▲26.6	▲41.2	0.0	26.6

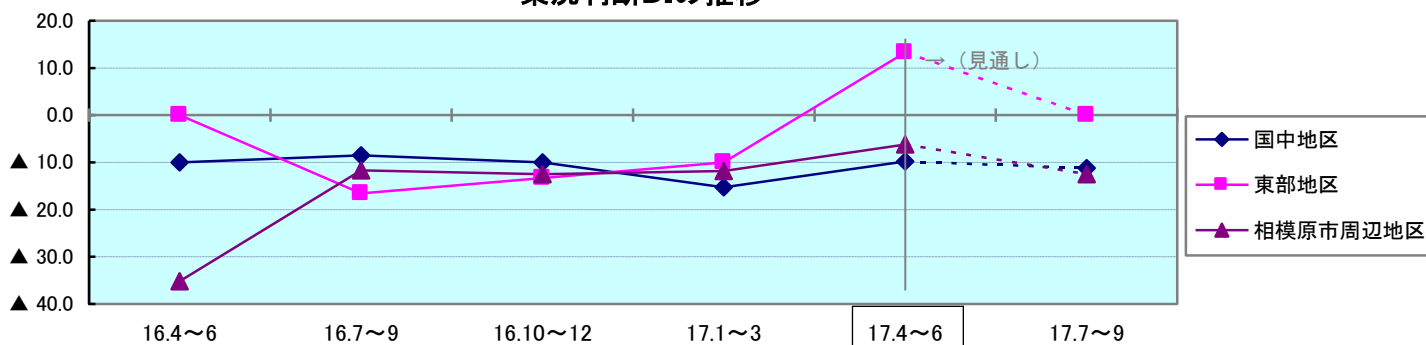
国中地区においては、業況判断D Iが▲9.8と、前期（1～3月）の▲15.3から5.5ポイントの改善となりました（前年同期比0.1ポイント改善）。また、売上D Iは前期比15.2ポイント改善の▲5.6、収益D Iは同22.2ポイント改善の▲1.4と全てのD Iで改善となりました。来期（7～9月）の業況判断D Iは今期実績比1.4ポイント悪化の▲11.2と見込まれています。

東部地区においては、業況判断D Iが13.3と、前期の▲10.0から23.3ポイントの改善となりました（前年同期比13.3ポイント改善）。また、売上D Iは前期比20.0ポイント改善の3.3、収益D Iは同33.3ポイント改善の6.6と全てのD Iで改善となりました。来期の業況判断D Iは0.0と今期実績比13.3ポイントの悪化が見込まれています。

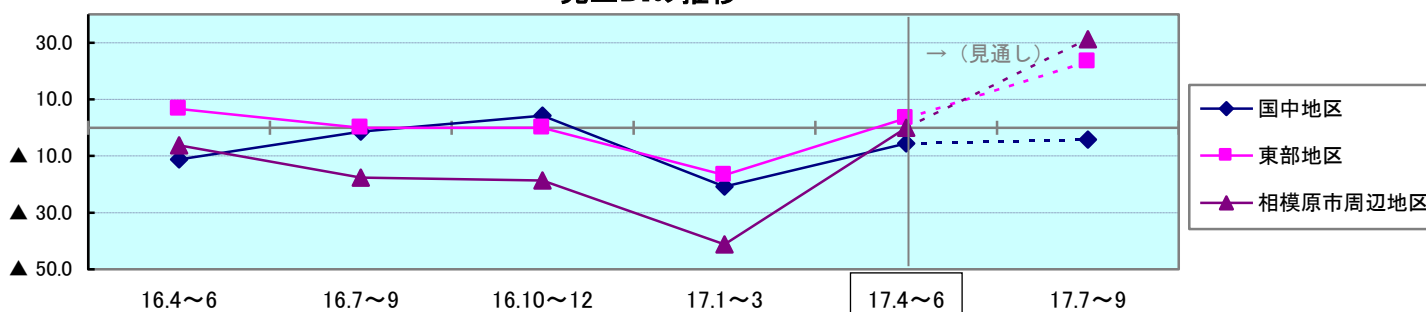
相模原市周辺地区においては、業況判断D Iが▲6.2と、前期の▲11.8から5.6ポイントの改善となりました。（前年同期比29.0ポイント改善）。売上D Iは前期比41.2ポイント改善の0.0、収益D Iは同41.2ポイント改善の0.0と全てのD Iで改善となりました。来期の業況判断D Iは▲12.5と今期実績比▲6.3ポイントの悪化が見込まれています。

地区別に見た景況感は、全てのD Iについて、3地区全てで改善となっています。また来期の業況D Iについて、全ての地区で悪化が見込まれています。

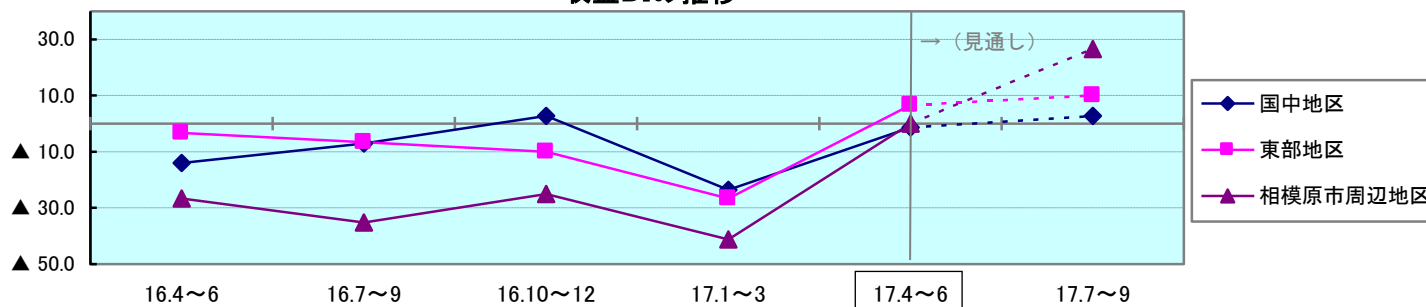
業況判断D Iの推移



売上D Iの推移

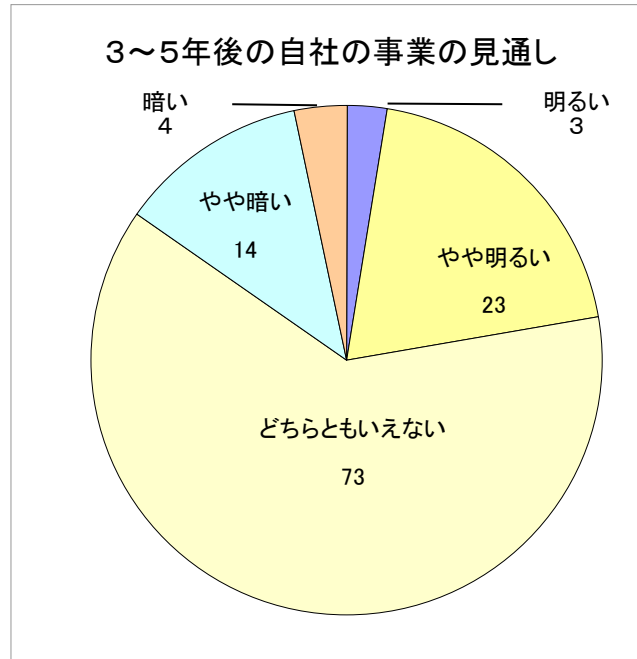


収益D Iの推移



◆ 貴社では、3～5年後の自社の事業をどのように見通していますか。(回答企業数：117社)

(単位：社)



3～5年後の自社の事業見通しについて、最も回答が多かったのは「どちらともいえない」で73社(62.3%)となりました。また、「明るい」、「やや明るい」と回答した企業数が26社(22.2%)であったのに対して「暗い」、「やや暗い」と回答した企業数が18社(15.3%)となりました。

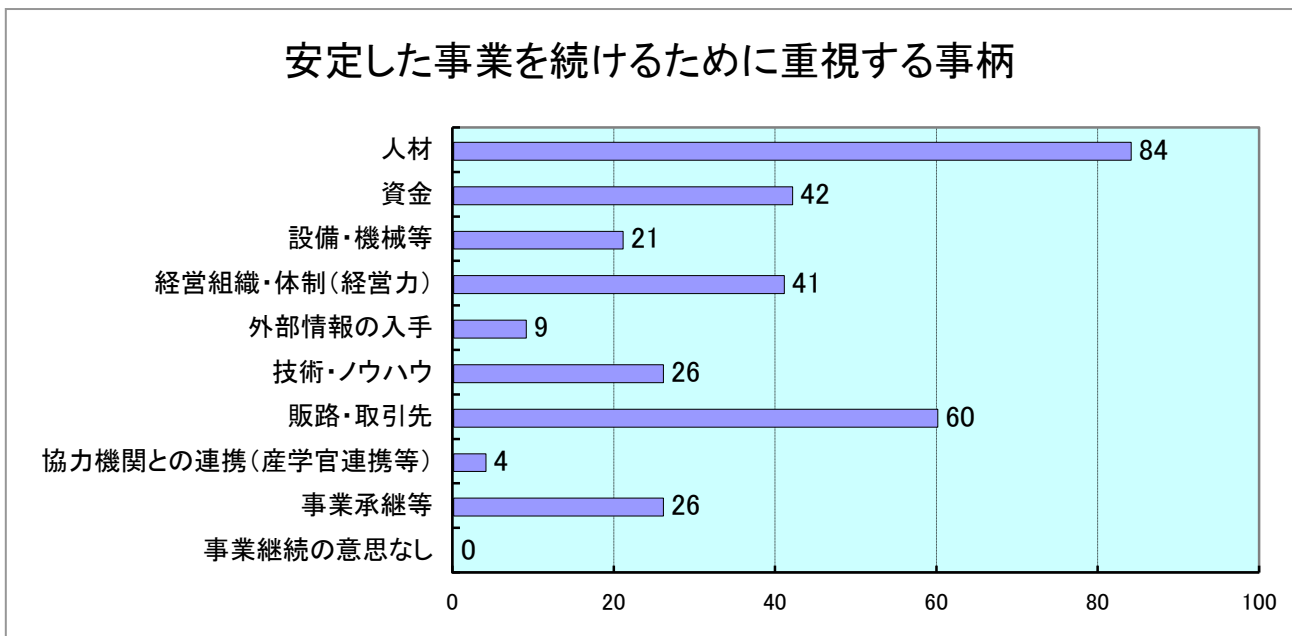
業種別にみると、製造業、小売業、不動産業で「明るい」、「やや明るい」とする回答が「暗い」、「やや暗い」を上回る結果となりました。

一方、サービス業では「暗い」、「やや暗い」とする回答が「明るい」、「やや明るい」を上回る結果となりました。

◆ 貴社では、3～5年後に向けて安定した事業を続けるために重視する事柄について、どのようにお考えですか。(複数回答)

(回答企業数：117社)

(単位：社)

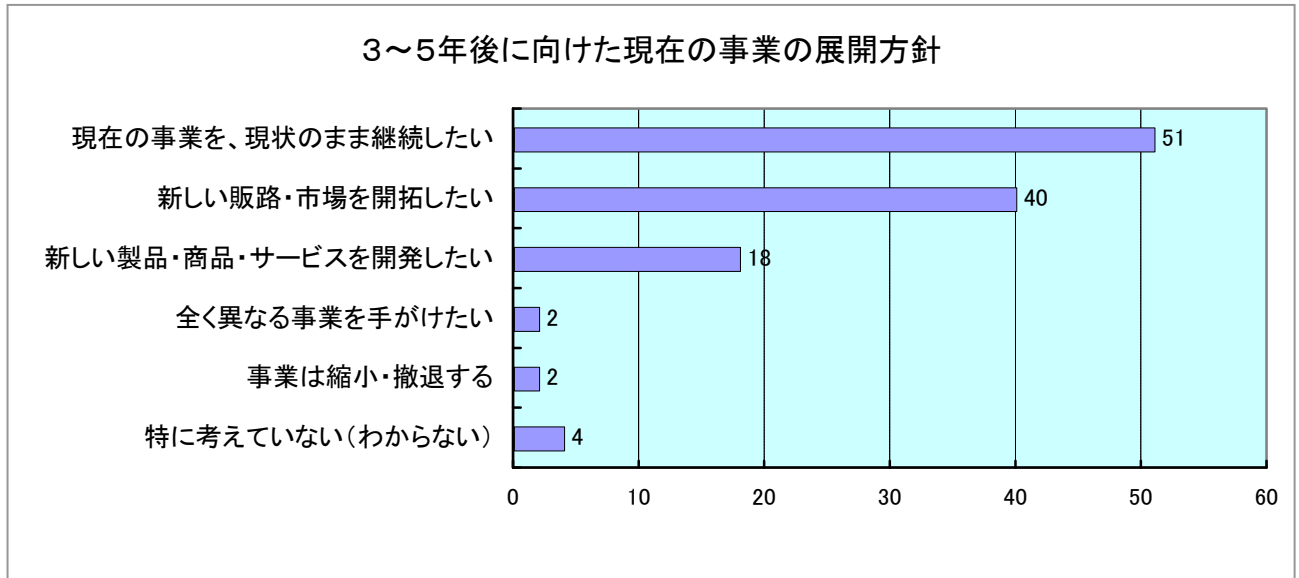


安定した事業の継続のために重視する事柄については、「人材」が84社(71.7%)と最も多く、次いで「販路・取引先」(60社、51.2%)、「資金」(42社、35.8%)、と続いています。

業種別に見ると、製造業、小売業、サービス業、建設業で「人材」と回答した企業が最も多くなりました。卸売業では「販路・取引先」が、不動産業では「資金」がそれぞれ最も多い回答となりました。

- ◆ 貴社では3～5年後に向けて、現在の事業をどのように展開していきたいとお考えですか。
(回答企業数数：117社)

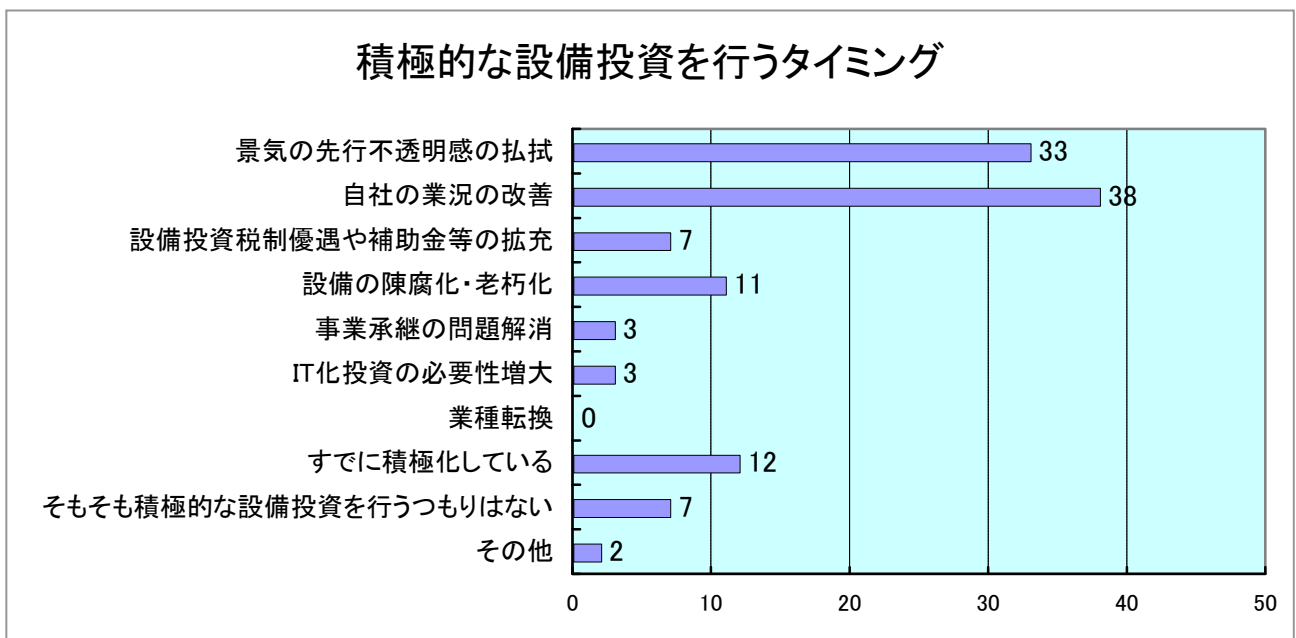
(単位：社)



3～5年後に向けた事業展開について、「現在の事業を、現状のまま継続したい」回答した企業が51社(43.5%)と最も多く、次いで「新しい販路・市場を開拓したい」(40社、34.1%)、「新しい製品・商品・サービスを開発したい」(18社、15.3%)と続いています。

業種別に見ると、製造業、小売業、サービス業、建設業、不動産業で「新しい販路・市場を開拓したい」と回答した企業が最も多く、卸売業は「新しい販路・市場を開拓したい」が最も多い回答となりました。

- ◆ 貴社では3～5年後に向けて安定した事業を続けるために、どのような状況になれば積極的な設備投資を開始しますか。(回答企業数：116社)

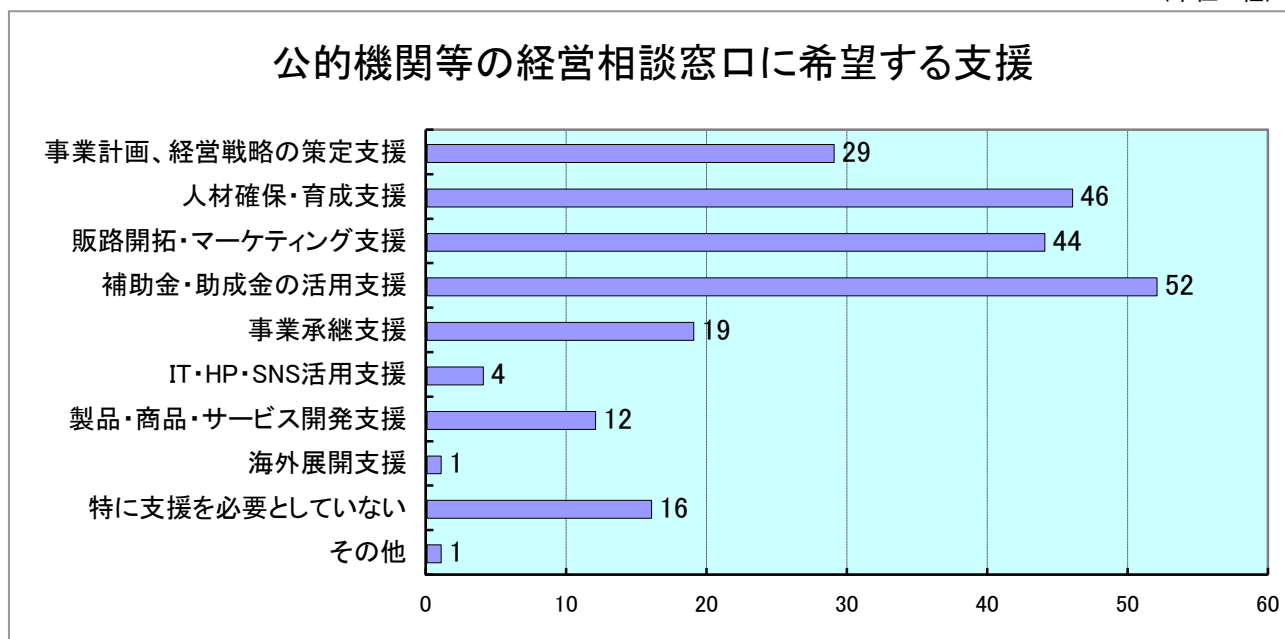


積極的な設備投資を開始するタイミングについては、「自社の業況の改善」と回答した企業が38社(32.7%)と最も多く、次いで「景気の先行不透明感の払拭」(33社、28.4%)、「すでに積極化している」(12社、10.3%)と続いています。

業種別に見ると、製造業、卸売業、小売業で「自社の業況の改善」との回答が最も多く、建設業では「景気の先行き湯透明感の払拭」が最も多くなる結果となりました。

◆貴社では、3～5年後の事業の継続・発展へ向けて、公的機関、商工会議所、商工会、金融機関等の経営相談窓口からどのような支援を受けたいですか。(複数回答)(回答企業数：117社)

(単位：社)



公的機関等の経営相談窓口に希望する支援については、「補助金・助成金の活用支援」と回答した企業が52社(44.4%)最も多く、次いで「人材確保・育成支援」(46社、39.3%)、「販路開拓・マーケティング支援」(44社、37.6%)と続いています。

業種別に見ると、製造業と建設業で「補助金・助成金の活用支援」との回答が最も多かったほか、小売業、サービス業で「人材確保・育成支援」が、卸売業で「販路開拓・マーケティング支援」がそれぞれ最多回答となりました。

調査員のコメント

製造業

○特許技術を生かした新商品の開発に注力しているものの、なかなか売り上げの増加につながっていない。今後の事業継続のためにも、新商品の開発は不可欠であり、人材の育成とともに注力していく。（貴金属製品製造業）

卸売業

○徹底した在庫管理や主力商品の売上の安定化等の営業努力から今期の決算は増収増益となった。社員教育や事業承継に向けた後継者育成にも力を入れており、今後は同業他社との差別化が課題となっている。（生活雑貨卸売業）

小売業

○販売商品が冬物から春夏物に替わり単価が落ちた影響で売上は減少したが、在庫の適正化や粗利率の向上、諸経費の削減に努めた結果、収益は増加となった。人材の確保が恒常的な課題となっている。（衣料品小売業）

サービス業

○学生宿泊客を確保するため、関東近県の教育委員会、大学等へ営業活動を展開する等、集客強化に努めており、業況についても安定して推移している。（宿泊業）

建設業

○建設業界を取り巻く環境は依然厳しく、工事代金の回収サイトが長期化してきている。公共工事も少なく、先行きの不透明感が強いことに不安を感じている。現在は販路拡大に努めている（総合工事業）

不動産業

○リニア新幹線開通に伴う新駅建設により、再開発が進められており、周辺の地価が高騰してきている。これをきっかけとして、仕入価格が上昇することが懸念材料となっている。（不動産販売・建売業）

編集後記

このたびの中小企業景気動向調査におかれましては、皆様にはお忙しいなか、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断DIが前期比9.2ポイント改善の▲4.2と、前期から一転しての改善となりました。依然として、マイナスの値ではあるものの、過去1年間で最も高い数値となりました。

なお、来期の見通しについては、今期実績比3.5ポイント悪化の▲7.7と見込まれています。

また、今回の特別調査では「中小企業の3～5年後の事業の見通しについて」と題し調査をいたしました。事業見通しでは、「どちらともいえない」と回答した企業が最も多かったものの、「明るい」、「やや明るい」と回答した企業が、「暗い」、「やや暗い」と回答した企業を上回っており、一定の期待感が伺える調査結果となりました。

山梨信用金庫におきましても、地域金融機関として、設備投資や新規事業に係る事業資金ニーズへの対応はもちろんのこと、お取引先企業の事業継続・発展に向けて、各種情報提供や相談業務、専門家派遣等、それぞれのニーズに応じた商品・サービスの提供に努めてまいります。

その他の中小企業の抱える様々な課題に対しましても積極的に支援していく所存ですので、お気軽に当金庫営業店または担当者までご相談ください。